

帽子の修理

加藤 誓 (ちかい)

グラウンド・ゴルフやゴルフで被るお気に入りの帽子のひさしの先が、度重なる洗濯のため剥がれてしまった。

手芸が得意の女房に修理を依頼した。

100均で帽子の色と全く同じベージュ色の「のり付きの裾上げテープ」を買ってきた。

「素晴らしい。全く同じ色だ！」と褒め称え修理を依頼。

数日後、「明日使うから、修理をお願い！」「わかった！ところでテープはどこ？」テープが見当たらない。私が最後に見たのはソファの前のテーブルである。

周囲を探すが見当たらない。

「あんたがどっかに持って行ったのじゃない？例えば、アイロンの傍とか、予備のボタンなど小物を入れている所とか？」

女房もはつきり覚えがなく、半信半疑状態。「ボケてないかい。そんな所には、絶対持って行かないよ！」私は、名探偵気分でテープの有り場所を推理。

「あなたの部屋には、絶対持って行ってない！」「台所を探しても無駄だ！」

私も、再々ソファやテーブルの下や周り等を念入りに探すが、無い。

「最初探した所を再度確認して！」見つからない。「もう一度あの日の行動を思い出して！」とうとう、女房が「また、100均で買って来るから！」

「私が言っているのは、物が無くなるはずがない！ということ。見つからないと落ち着かない！」110円ではあるが、認知症が掛かった大事件である。

夕ご飯の準備の時間である。しばし、テープの搜索は中止することにした。

暑さは9月になっても続いているが、さすがに18時過ぎには夕陽が沈む。

冷房時には、二重カーテンの窓側の白いカーテンは常に閉めているが、もうひとつの厚手のカーテンを閉めに行った。

白いカーテンの裾に隠れて何かがあった。

「テープがあったぞ！」

「そうですね！私の所為でなく、あなたの所為！」

「チョット待て！私ゃ認知症じゃないぞ！」

どうも、横になったソファから起きるために布団を跳ねた時、そこに乗っていたテープが1.5m先のカーテンまで飛んで行ったようだ。

名探偵のつけた犯人は自分であった。

夫婦共々、スマホはどこだ！鍵はどこだ！と探すことが最近多くなった。

今回も「自分は物忘れが進んでいるのでは？」と感ずるが所以の事件であるが、物が見つかり、帽子の修理も出来、取り敢えず、目出度しめでたし。

